

# 「教科等横断的な学び」とは？

- \* 児童生徒が、ある教科等の学びを他の教科等の学びで活用したり関連づけたることで、学びが深まったり、活用することを実感できたりするような学びです。
- \* 教師にとっては、限られた時間の中で実践の効果を高めたり、一つの体験や学習内容を複数教科等に活用することにより、カリキュラムのスリム化につながったりします。
- \* 学校にとっては、カリキュラム全体で児童生徒を育てる意識を促し、先の見通しをもった実践へとつながります。

\* 島根県教育センター浜田教育センター研究・研修スタッフ研究の中で、学習指導要領で示された「カリキュラム・マネジメント」の側面の一つに係る取組を「教科等横断的な学び」と示しています。



まんがでイメージ！

# 教科等横断的な学び

島根県教育センター浜田教育センター  
研究・研修スタッフ R2 研究成果物

## このリーフレット活用を通して

このリーフレットは、島根県教育センター浜田教育センター研究・研修スタッフの研究の取組として作成しました。教科等横断的な視点のある授業等

に取組むために、今の実践や学習が教科等横断的な視点での学習になっているか、今後どのような方向へ進めば良いのかを知るためのものです。

自分のステージを確認したら、右の扉を開きましょう...



## ここでの「資質・能力」とは？

学習指導要領には「学校教育において目指している全人的な「生きる力」を児童生徒に育てていくためには、各教科等の特質に応じた資質・能力の育成を図っていくことと同時に、各教科等で身に付けた資質・能力を様々な場面で統合的に働かせることができるよう、知識と生活との結びつきや教科等横断的な視点を重視した教育を行っていくことが必要である。そのためには、教科等の目標や内容の一部についてこれらを併せて指導を行ったり、関連させて指導を進めたりすることが効果的である場合も考えられる。」と示しています。そのためにも、各授業等で何を指すのか、どんな力を育むのか、を明確にしておくことが大切です。資質・能力としては、次があげられます。

- ・各教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力
- ・学習の基盤となる資質・能力（例えば、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）
- ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力（健康・安全・食に関する力等）

## ここでの「内容」とは？

授業等での学習テーマや学習事項のことを示します。例えば、理科の「流れる水の働きと土地の変化」と社会の「自然災害」といった内容を関連づけて授業の内容を実施した場合、児童生徒は習ったことを活かして深く考えたり、活用したりできます。このことで、より実感を伴った学びにつながります。

自分がどこまで意識しているかを確認することで、今、何をすべきなのかが見えてきます。次のステージに進めるよう、示されている項目を確認して授業づくりに活かしましょ。

ステージ	内容
ステージ1	各教科等と他教科等の内容をつなげる
ステージ2	各教科等と他教科等の内容をつなげる意識を高める
ステージ3	各教科等と他教科等の資質・能力をつなげる意識を高める
ステージ4	学校で育成を目指す資質・能力と各教科等の資質・能力をつなげる意識を高める

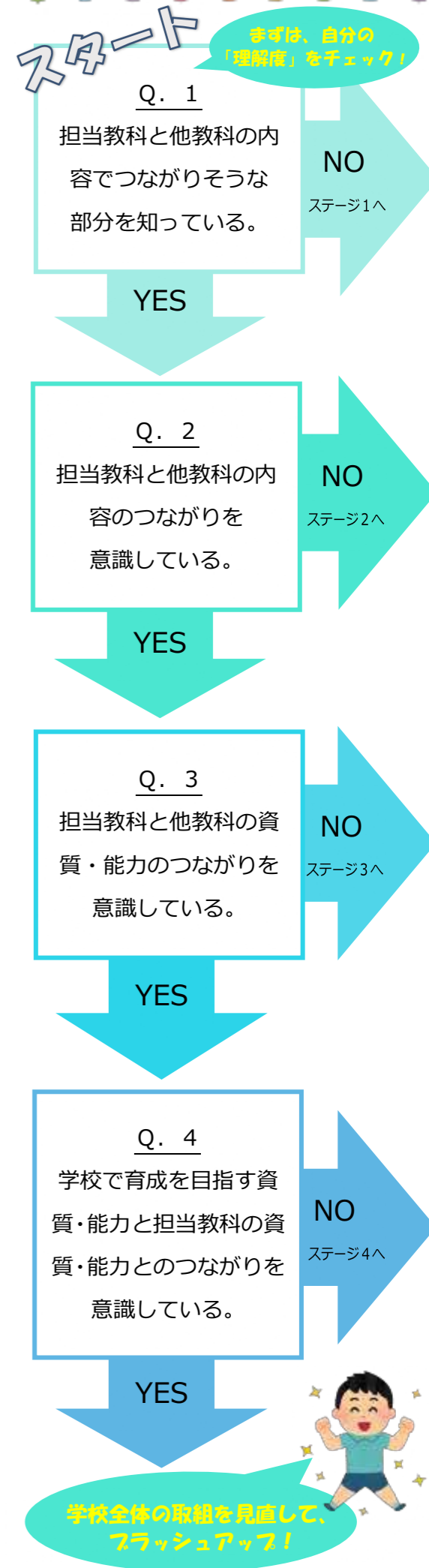
下のステージに向かうほど、教科等のつながりや学校組織とのつながりを意識した教科等横断的な学びを実現できていくことになります。

今、まさに直面しているコロナ禍や大震災、社会の様々な急速な変化等々。これからの予測が困難な時代を生き抜くためには、「未知の状況にも対応できる力」、一人で考えるだけでなく、様々な力を結集させて、様々な未知の課題を解決していく「全人的な力」の育成が必要です。そのためには、「総合的な学習」の充実だけでなく、各教科間においても教科等横断的な学習を充実させることが大切です。

「総合的な学習」での「探究的な見方・考え方」は、子どもたちが各教科等で身に付けた見方・考え方を総合的に活用して実社会や実生活、自己の生き方などと関連づけて問い続けることです。このように、各教科等における見方・考え方を働かせ、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮することが、「全人的な力」の育成につながるのです。

さらに、教科等横断的な学習が実現できれば、各教科の資質・能力の育成とともに、学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力、即ち「全人的な力」のより一層の育成が期待できるでしょう。

まずは、教科等横断的な学びへの一歩として、このリーフレットを参考にしてみてくださいませ。 R3.3月 島根県立大学 教授 高橋 泰道



キーワード

ステージ

ステップ

### 「キーワード」「ステージ」「ステップ」をつなげて考えよう!

キーワードはステージレベルが上がると増えていきます。自身の授業を考える視点が広がっていくイメージです。

各ステージが確認できたら、キーワードとステップをつなげて、より具体的に効果的に進めていきましょう。

例：ステージ3-④

「他教科の先生と連携して、  
年間指導計画や単元配列表を操作しながら、  
いつ、どの単元・題材で、どのような指導で取り組むか考える。」  
となります。

キーワード(誰と)

キーワード(どのように)

ステップ

どのように

### ステージ1

担当教科等と他教科等の  
つながりそうな部分

スタート	担当教科等の内容について確認していない。
①	担当教科等の単元や題材で取扱う内容(教材・教具、学習テーマや学習活動等)について確認する。
②	他教科等の単元や題材で取扱う内容(教材・教具、学習テーマや学習活動等)について確認する。
③	教科等間の内容相互の関連について考える。
ゴール	担当教科等と他教科等の内容でつながりそうな部分を知っている。

### ステージ2

担当教科等と他教科等の  
内容のつながり  
〔年間指導計画や単元配列表〕

年間指導計画や単元配列表を  
操作しながら、  
(線で結ぶ、加筆する、順番を入れ替えるなど)

スタート	担当教科等と他教科等の内容でつながりそうな部分を知っている。
P	① 担当教科等の単元や題材で取扱う内容(教材・教具、学習テーマや学習活動等)について確認する。
	② 他教科等の単元や題材で取扱う内容(教材・教具、学習テーマや学習活動等)について確認する。
	③ 教科等間の内容相互の関連について考える。
	④ いつ、どの単元・題材で、どのような指導で取り組むか考える。
D	⑤ 教科等横断を意識して、授業を行う。
C	⑥ 生徒の姿から内容の関連について成果や課題を振り返る。
A	⑦ 事後や次年度に生かせるように改善案をつくり、実施する。
ゴール	担当教科等と他教科等の内容のつながりを理解している。

### 「学び」をPDCAで改善しよう!

ステージが確認できたら、各ステージの①から進めていきます。各ステージのスタートは「今の状況」を、ゴールは「ステップで目指す姿」です。

誰と

担当教科等の先生と連携して、

他教科等の先生と連携して、

### ステージ3

担当教科等と他教科等の  
資質・能力のつながり  
〔先生方との連携〕

年間指導計画や単元配列表を  
操作しながら、  
(線で結ぶ、加筆する、順番を入れ替えるなど)

ステージ3の事例を  
見てみよう!

スタート	担当教科等と他教科等の内容のつながりを理解している。
P	① 担当教科等で育成する資質・能力(身に付けた力・身に付けたい力)について確認する。(指導内容について、その基礎的・基本的知識及び技能を明確にする。)
	② 他教科等で育成する資質・能力(身に付けた力・身に付けたい力)について確認する。(指導内容について、その基礎的・基本的知識及び技能を明確にする。)
	③ 教科等間の指導内容相互の関連や資質・能力(身に付けた力)の活用について考える。
	④ いつ、どの単元・題材で、どのような指導で取り組むか考える。(発展的・系統的な指導ができるように指導内容を配列する。授業時数や一単位時間の構成を定める。)
D	⑤ 教科等横断を意識して、(身に付けたい力を育成する)授業を行う。(生徒自らが気付けるように...) ・他教科等で身に付けた力を担当教科で活用する授業 ・担当教科等で身に付けた力を他教科で活用できるようにする授業
C	⑥ 生徒の姿から資質・能力(身に付けた力)の活用について成果や課題を振り返る。(評価の資料を収集し、検討する。整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにする。)
A	⑦ 事後や次年度に生かせるように改善案をつくり、実施する。
ゴール	担当教科等と他教科等の資質・能力のつながりを理解している。

### ステージ4

学校で育成を目指す  
資質・能力と  
担当教科等の資質・能力の  
つながり  
〔年間指導計画や単元配列表〕  
〔教職員全体で共有〕  
〔学校で育成を目指す資質・能力〕

年間指導計画や単元配列表を  
操作しながら、  
(線で結ぶ、加筆する、順番を入れ替えるなど)

スタート	担当教科等と他教科等の資質・能力のつながりを理解している。
P	① 学校で育成を目指す資質・能力と担当教科等で育成する資質・能力(身に付けた力・身に付けたい力)との関連について確認する。(指導内容について、その基礎的・基本的知識及び技能を明確にする。)
	② いつ、どの単元・題材で、どのような指導で取り組むか考える。(発展的・系統的な指導ができるように指導内容を配列する。授業時数や一単位時間の構成を定める。)
D	③ 学校で育成を目指す資質・能力を意識して、授業を行う。(生徒自らが気付けるように) ・学校で育成を目指す資質・能力と担当教科等の資質・能力とを関連させた授業
C	④ 生徒の姿から資質・能力の関連について成果や課題を振り返る。(評価の資料を収集し、検討する。整理した問題点を検討し、原因と背景を明らかにする。)
A	⑤ 事後や次年度に生かせるように改善案をつくり、実施する。
ゴール	学校で育成を目指す資質・能力と担当教科等の資質・能力とのつながりを理解している。

キーワード

ステージ

ステップ

1年間の流れを確認する  
ワークシート!



単元や題材を構想する  
ワークシート!



何を意識して

小学校版  
ステップは  
こちら!



\*QRコードは  
(株)デンソーウェーブ  
の登録商標です。

「教科等横断的な学び」への意識の深まり